

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-201082

(43)Date of publication of application : 16.07.2002

(51)Int.Cl.

C04B 38/00  
B01D 39/20  
B01D 53/86  
B01J 35/04  
C04B 38/06  
F01N 3/02

(21)Application number : 2001-032699

(71)Applicant : NGK INSULATORS LTD

(22)Date of filing : 08.02.2001

(72)Inventor : ICHIKAWA SHUICHI  
TOMITA TAKAHIRO  
KAWASAKI SHINJI  
SAKAI HIROAKI

(30)Priority

Priority number : 2000113513 Priority date : 14.04.2000 Priority country : JP  
2000337936 06.11.2000 JP

(54) HONEYCOMB STRUCTURED BODY AND METHOD OF MANUFACTURING THE SAME

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a honeycomb structured body which is sufficiently porous with high specific surface area, preferably useable for automobile exhausting gas purifying filter even under high SV condition, containing fire resistant powder such as silicon carbide but can be economically manufactured with relatively low firing temperature, and the thermal conductivity of which is set at a proper value, by processing of plugging or catalyst supporting, etc.

SOLUTION: The porous honeycomb structured body is composed of a lot of axial through holes surrounded by partitions containing aggregates of fire resistant powder



11, and metallic silicon 10.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号  
特開2002-201082  
(P2002-201082A)

(43) 公開日 平成14年7月16日 (2002.7.16)

(51) Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テマコード* (参考)	
C 0 4 B 38/00	3 0 3 3 0 4	C 0 4 B 38/00	3 0 3 Z	3 G 0 9 0
B 0 1 D 39/20		B 0 1 D 39/20	3 0 4 Z	4 D 0 1 9
53/86	Z A B	B 0 1 J 35/04	D	4 D 0 4 8
B 0 1 J 35/04	3 0 1		3 0 1 K	4 G 0 1 9
			3 0 1 P	4 G 0 6 9
審査請求 未請求 請求項の数24 O L (全 9 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願2001-32699(P2001-32699)  
(22) 出願日 平成13年2月8日 (2001.2.8)  
(31) 優先権主張番号 特願2000-113513(P2000-113513)  
(32) 優先日 平成12年4月14日 (2000.4.14)  
(33) 優先権主張国 日本 (J P)  
(31) 優先権主張番号 特願2000-337936(P2000-337936)  
(32) 優先日 平成12年11月6日 (2000.11.6)  
(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000004064  
日本碍子株式会社  
愛知県名古屋市瑞穂区須田町2番56号  
(72) 発明者 市川 周一  
愛知県名古屋市瑞穂区須田町2番56号 日  
本碍子株式会社内  
(72) 発明者 富田 崇弘  
愛知県名古屋市瑞穂区須田町2番56号 日  
本碍子株式会社内  
(74) 代理人 100088616  
弁理士 渡邊 一平

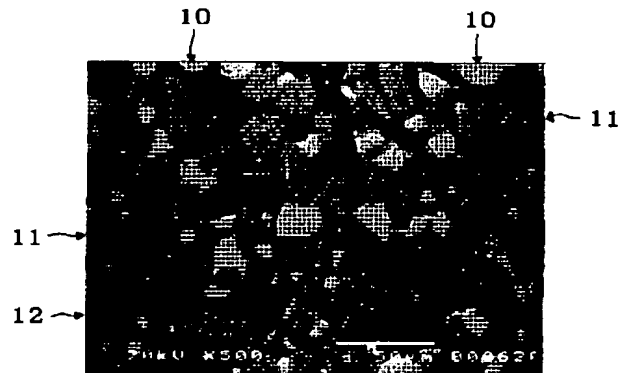
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 ハニカム構造体及びその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 炭化珪素粒子のような耐火性粒子を含みながらも比較的低い焼成温度で安価に製造できるとともに、熱伝導率が適度な数値に設定されており、十分に多孔質かつ高比表面積で、目封じや触媒担持等の処理により自動車排気ガス浄化用のフィルターとして高S V条件下でも好適に使用できるハニカム構造体を提供する。

【解決手段】 隔壁により仕切られた軸方向に貫通する多数の流通孔を有するハニカム構造体であって、骨材となる耐火性粒子11と金属珪素10とを含み、多孔質であるハニカム構造体である。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 隔壁により仕切られた軸方向に貫通する多数の流通孔を有するハニカム構造体であって、骨材となる耐火性粒子と金属珪素とを含み、多孔質であることを特徴とするハニカム構造体。

【請求項2】 前記耐火性粒子が、その耐火性粒子表面の一部において前記金属珪素により結合された構造を有する請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項3】 熱伝導率が $5\text{ W/mK}$ 以上である請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項4】 前記耐火性粒子が、その原料粒子形状を留めた状態で前記金属珪素により結合された構造を有する請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項5】 前記耐火性粒子が、炭化珪素粒子である請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項6】 含塵流体中に含まれる粒子状物質を捕集除去するフィルターとして用いられる請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項7】 気孔率が $30\sim 90\%$ の範囲にある請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項8】 平均細孔径が $2\sim 50\text{ }\mu\text{m}$ の範囲にある請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項9】 気孔率が $50\sim 90\%$ の範囲にあるとともに、熱伝導率が $5\sim 30\text{ W/mK}$ の範囲にある請求項2記載のハニカム構造体。

【請求項10】 前記金属珪素の含有量が、前記耐火性粒子原料と金属珪素との合計量に対して、 $5\sim 50$ 重量%の範囲である請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項11】 前記隔壁の厚さが $102\sim 1270\text{ }\mu\text{m}$ である請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項12】 前記隔壁の厚さとハニカム構造体の気孔率とが以下の関係を満たす請求項1記載のハニカム構造体。

【数1】 隔壁の厚さ ( $\mu\text{m}$ )  $\geq$  気孔率 (%)  $\times 4$

【請求項13】 前記隔壁の厚さとハニカム構造体の気孔率とが以下の関係を満たす請求項1記載のハニカム構造体。

【数2】 隔壁の厚さ ( $\mu\text{m}$ )  $\geq$  気孔率 (%)  $\times 5$

【請求項14】 前記隔壁の厚さとハニカム構造体の気孔率とが以下の関係を満たす請求項1記載のハニカム構造体。

【数3】 隔壁の厚さ ( $\mu\text{m}$ )  $\leq$  気孔率 (%)  $\times 20$

【請求項15】 セル密度が $0.7\sim 155\text{ セル/cm}^2$ である請求項1記載のハニカム構造体。

【請求項16】 耐火性粒子原料に、金属珪素と有機バインダーを添加し混合及び混練して得られた坯土をハニカム形状に成形し、得られた成形体を仮焼して成形体中の有機バインダーを除去した後、本焼成することを特徴とするハニカム構造体の製造方法。

【請求項17】 前記耐火性粒子原料が、炭化珪素粒子

原料である請求項16記載の製造方法。

【請求項18】 前記耐火性粒子原料の平均粒径が、最終的に得られるハニカム構造体の平均細孔径の $2\sim 4$ 倍である請求項16記載の製造方法。

【請求項19】 前記金属珪素の添加量が、前記耐火性粒子原料と金属珪素との合計量に対して、 $5\sim 50$ 重量%の範囲である請求項16記載の製造方法。

【請求項20】 前記金属珪素の平均粒径が、骨材である耐火性粒子の平均粒径の $50\%$ 以下である請求項16記載の製造方法。

【請求項21】 前記有機バインダーを、前記耐火性粒子原料と金属珪素との合計量に対して、外配で $2\sim 30$ 重量%の範囲で添加する請求項16記載の製造方法。

【請求項22】 前記坯土を調合する際に、造孔剤を、前記耐火性粒子原料と金属珪素との合計量に対して、外配で $30$ 重量%以下の範囲で添加する請求項16記載の製造方法。

【請求項23】 前記成形体の仮焼を、前記金属珪素が溶融する温度より低い温度にて実施する請求項16記載の製造方法。

【請求項24】 前記本焼成を、 $1400\sim 1800^\circ\text{C}$ の温度範囲で実施する請求項16記載の製造方法。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、自動車排気ガス浄化用のフィルターや触媒担体等に使用されるハニカム構造体に関する。

【0002】

【従来の技術】 ディーゼルエンジン排気ガスのような含塵流体中に含まれる粒子状物質を捕集除去するためのフィルター、あるいは排気ガス中の有害物質を浄化する触媒成分を担持するための触媒担体として、多孔質のハニカム構造体が広く使用されている。また、このようなハニカム構造体の構成材料として、炭化珪素 ( $\text{SiC}$ ) 粒子のような耐火性粒子を使用することが知られている。

【0003】 具体的な関連技術として、例えば特開平6-182228号公報には、所定の比表面積を有するとともに不純物を含有する炭化珪素粉末を出発原料とし、これを所望の形状に成形、乾燥後、 $1600\sim 2200^\circ\text{C}$ の温度範囲で焼成して得られるハニカム構造の多孔質炭化珪素質触媒担体が開示されている。

【0004】 一方、特開昭61-26550号公報には、易酸化性素材、又は易酸化性素材を含有する耐火組成物にガラス化素材を添加し、結合材とともに混合、混練及び成形し、成形した成形体を非酸化雰囲気の中で焼成することを特徴とするガラス化素材含有耐火物の製造方法が、特開平8-165171号公報には、炭化珪素粉末に、有機バインダーと、粘土鉱物系、ガラス系、珪酸リチウム系の無機バインダーを添加して成形す

る炭化珪素成形体が、それぞれ開示されている。

【0005】 また、前記特開平6-182228号公報には、従来の多孔質炭化珪素質焼結体の製造方法として、骨材となる炭化珪素粒子にガラス質フラックス、あるいは粘土質などの結合材を加え成形した後、その成形体を前記結合材が溶融する温度で焼き固めて製造する方法も紹介されている。

【0006】 更に、特公昭61-13845号公報及び特公昭61-13846号公報には、珪砂、陶磁器粉砕物、 $Al_2O_3$ 、 $TiO_2$ 、 $ZrO_2$ 等の金属酸化物、炭化珪素、窒化物、硼化物あるいはその他の耐火性材料等よりなる所定粒度に整粒された耐火性粒子が、水ガラス、フリット、釉薬等の耐火性結合材で多孔質の有底筒状体に形成された高温用セラミックフィルターについて、その好適な耐火性粒子平均径、耐火性粒子粒度分布、筒状体気孔率、筒状体平均細孔径、筒状体細孔容積、筒状体隔壁肉厚等が開示されている。

【0007】 なお、特公平8-13706号公報においては、金属珪素を介して一体に接合してなる構造を有する炭化珪素/金属珪素複合体、及び、珪素集積バイオマスアルゴン又は窒素雰囲気下で加熱処理して形成された炭化珪素と金属珪素を用いた前記複合体の製造方法が開示されている。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】 前記特開平6-182228号公報に示される、炭化珪素粉末自体の再結晶反応による焼結形態（ネッキング）では、炭化珪素粒子表面から炭化珪素成分が蒸発し、これが粒子間の接触部（ネック部）に凝縮することで、ネック部が成長し結合状態が得られるが、炭化珪素を蒸発させるには、非常に高い焼成温度が必要であるため、これがコスト高を招き、かつ、熱膨張率の高い材料を高温焼成しなければならないために、焼成歩留が低下するという問題があった。

【0009】 また、上記の炭化珪素粉末自体の再結晶反応による焼結によって、高气孔率であるフィルター、特に50%以上の気孔率を有するフィルターを製造しようすると、当該焼結機構が十分に機能しなくなるためにネック部の成長が妨げられ、これに起因してフィルターの強度が低下してしまうといった不具合を有していた。

【0010】 更に、上記の材料は熱伝導率が30W/mK以上と非常に高く、局所的な発熱を抑えるという点では有利ながら、例えば触媒を担持してバティキュレートに酸化及び燃焼し、連続的に再生する方式のフィルターに用いた場合、バティキュレートの堆積量が少なく、放熱しやすいといった特徴により、担体の温度が上がるまでに非常に時間を要する。したがって、触媒が機能する温度まで温度が上がるのに時間を要するため、バティキュレートの燃え残りが生じて再生効率が下がる等の問

題も併せもっていた。

【0011】 特開昭61-26550号公報や特開平6-182228号公報に示される、原料炭化珪素粉末をガラス質で結合させる手法は、焼成温度としては1000~1400℃と低くて済むが、例えばこの手法で作製された焼結体をディーゼルエンジンから排出される排気ガス中に含まれるバティキュレートを除去するためのディーゼルバティキュレートフィルター（DPF）の材料として用いる場合には、フィルター再生のため、フィルターに捕集され堆積したバティキュレートを燃焼させようすると、熱伝導率が小さいために局所的な発熱が生じるという問題点があった。

【0012】 更に、特公昭61-13845号公報及び特公昭61-13846号公報に示されるフィルターは、多孔質ではあるものの、隔壁が5~20mmと厚い有底筒状体であり、自動車排気ガス浄化用フィルターのような高SV（空間速度）条件下には適用できなかった。

【0013】 また、特公平8-13706号公報に示される複合体、及びその製造方法では、当該複合体を多孔質とすることもできるが、フィルターとして使用するに際しては十分な気孔率を確保することが容易ではなく、特に当該複合体をディーゼルエンジン排気ガスのような含塵流体中に含まれる粒子状物質を捕集除去するためのフィルターとして使用することは困難であった。

【0014】 本発明は、このような従来の事情に鑑みてなされたものであり、炭化珪素粒子のような耐火性粒子を含みながらも比較的低い焼成温度で安価に製造できるとともに、熱伝導率が適度な数値に設定されており、十分に多孔質かつ高比表面積で、目封じや触媒担持等の処理により自動車排気ガス浄化用のフィルターとして高SV条件下でも好適に使用できるハニカム構造体とその製造方法を提供することを目的とする。

【0015】

【課題を解決するための手段】 本発明によれば、隔壁により仕切られた軸方向に貫通する多数の流通孔を有するハニカム構造体であって、骨材となる耐火性粒子と金属珪素とを含み、多孔質であることを特徴とするハニカム構造体、が提供される。

【0016】 また、本発明によれば、耐火性粒子原料に、金属珪素と有機バインダーを添加し混合及び混練して得られた坯土をハニカム形状に成形し、得られた成形体を仮焼して成形体中の有機バインダーを除去した後、本焼成することを特徴とするハニカム構造体の製造方法、が提供される。

【0017】

【発明の実施の形態】 前記のとおり、本発明のハニカム構造体は、耐火性粒子とともにそれら耐火性粒子を結合するための金属珪素を含んでいるので、その製造時において比較的低い焼成温度で焼結させることができ、製

造コストを抑えるとともに歩留まりを向上させることができる。また、耐火性粒子の結合に金属珪素を利用したことにより、耐火性粒子の結合にガラス質を利用した従来の構造体に比して高い熱伝導率を有するので、例えばDPFに使用した場合において、フィルター再生のために堆積したバティキュレートに燃焼させても、フィルターを損傷させるような局所的な発熱が生じない。更に、本発明は、特公昭61-13845号公報や特公昭61-13846号公報に示されるような厚壁の有底筒状体ではなく、多孔質のハニカム構造体であるので、自動車排気ガス浄化用のフィルターや触媒担体等として高SV条件下で使用できる。

【0018】 また、本発明のハニカム構造体は、当該ハニカム構造体を構成する耐火性粒子が、その粒子表面の一部において金属珪素により結合された構造を有することが好ましい。図2に、本発明に係るハニカム構造体であって、炭化珪素質焼結体の結晶構造である顕微鏡写真を示す。図中、白色部分が金属珪素10、灰色部分が炭化珪素粒子11、黒色部分が気孔12である。このように、耐火性粒子である炭化珪素粒子11はその粒子表面の一部において、周囲に存在する粒子同士が金属珪素10により結合されていることがわかる。なお、図2に示す炭化珪素質焼結体の製造方法は後述する。

【0019】 上記構造は必要以上の金属珪素を用いることなく形成されるため、焼成の過程において生じられる金属珪素同志の融合による緻密化を抑えることができる。このため、フィルターとして用いた場合の圧力損失を低く抑えるのに、十分な気孔率が確保されている。さらには、高い熱伝導率をも有しているために、したがって、例えばディーゼルエンジンから排出される排気ガス中に含まれるバティキュレートを捕集除去するためのDPF等として用いる場合における高気孔率が十分に確保されるとともに、フィルター再生のために堆積したバティキュレートを燃焼させても、高い熱伝導率を有しているために、フィルターが損傷するような局所的な発熱が生ずることはない。

【0020】 本発明のハニカム構造体は、前記のような局所的な発熱を回避する観点から、その熱伝導率が5W/mK以上であることが好ましい。

【0021】 また、本発明のハニカム構造体は、その微構造として、耐火性粒子が、その原料粒子形状を留めた状態で金属珪素により結合された構造を有することが好ましい。本発明のハニカム構造体を、含塵流体中に含まれる粒子状物質を捕集除去するためのフィルターとして用いる場合には、その気孔率を30～90%の範囲とすることが好ましい。ハニカム構造体の気孔率が30%未満では濾過速度が不足し、90%を超えると構造体としての強度が不足する。更に、自動車排気ガス浄化用フィルター等の圧力損失が懸念される用途に用いる場合には、気孔率を40%以上とすることが好ましい。

【0022】 更に、触媒を担持してバティキュレートを連続して燃焼させる方式のフィルター等、圧力損失を低く抑えなければならないフィルターとして用いるハニカム構造体である場合には、気孔率が50～90%、熱伝導率が5～30W/mKの範囲にあることが好ましく、気孔率が50～80%、熱伝導率が7～28W/mKの範囲にあることが更に好ましく、気孔率が53～70%、熱伝導率が9～25W/mKの範囲にあることが特に好ましい。

10 【0023】 触媒を担持させる方式のフィルターとして用いるハニカム構造体においては、触媒を担持することで圧力損失が上昇するため、気孔率を予め高く設定しておく必要がある。したがって、気孔率が50%未満では、本方式のフィルターでは圧力損失が大きくなるために好ましくない。一方、気孔率が90%を超えると、構造体としての強度が不足するために好ましくない。

20 【0024】 更に、前記方式のフィルターとして用いるハニカム構造体においては、局所的な発熱による不均一な温度分布の発生によりフィルターに局所的な応力が発生するのを抑える必要がある。したがって、熱伝導率が5W/mK未満では、局所的な発熱を効果的に抑えることが困難となる。一方、熱伝導率が30W/mKを超えると放熱の効果が大きいこと、及びバティキュレートの堆積量が少ないこと等に起因し、温度が上がりにくく触媒が機能する温度にまで昇温させるのに多大な時間を要するとともに、バティキュレートの燃え残りが生じてフィルターの再生効率が下がることがあるために好ましくない。

30 【0025】 なお、本発明でいうフィルターに担持される触媒とは、バティキュレートの酸化燃焼及びNO<sub>x</sub>の分解を目的として用いられる触媒であって、具体的には白金、パラジウム、ロジウム、イリジウム、銀などの貴金属あるいはアルミナ、ジルコニア、チタニア、セリア、酸化鉄などの酸化物等を用いることができるが、本発明はこれらのものに限定されることはない。

40 【0026】 同様に本発明のハニカム構造体をフィルターとして用いる場合、ハニカム構造体の平均細孔径は、濾過する対象に応じて決定することが好ましい。例えば、ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中に含まれるバティキュレートを捕集除去するためのDPFとして用いる場合には、平均細孔径を2～50μmの範囲とすることが好ましい。平均細孔径が2μm未満ではバティキュレートの少量堆積によっても著しく圧損が上昇し、逆に、50μmを超えるとバティキュレートの素抜けが起こるため、好ましくない。

50 【0027】 本発明のハニカム構造体における金属珪素の適切な含有量は、耐火性粒子の粒径や粒子形状によっても変わるが、耐火性粒子と金属珪素の合計量に対して5～50重量%の範囲内とすることが好ましく、15～40重量%の範囲内とすることが更に好ましい。5重

量%未満では、結合材が不足であるために隣接する耐火性粒子同士の金属珪素による結合が不十分であり、熱伝導率が低下するだけでなく、ハニカム構造のような薄壁の構造体を維持し得る強度を得ることが困難となる。逆に50重量%を超えると、適切に耐火性粒子同士を結合し得る以上に金属珪素が存在することに起因して、ハニカム構造体(焼結体)が焼結により過度に収縮してしまい、気孔率低下、平均細孔径縮小などの弊害が併発してくる点において好ましくない。

【0028】 ハニカム構造体の流通孔(セル)を仕切る隔壁の厚さは、4mil以上(102μm以上)とすることが好ましい。隔壁の厚さが4mil(102μm)未満では、構造体としての強度が不十分である。また、強度は気孔率と密接な関係にあり、本発明のハニカム構造体の場合、隔壁の厚さと気孔率とが以下の関係を満たすように隔壁の厚さを設定すれば、必要な強度が得られ、好ましいことが判明した。

【数4】 隔壁の厚さ(μm) ≥ 気孔率(%) × 4

【0029】 更に、隔壁の厚さと気孔率とが以下の関係を満たすように隔壁の厚さを設定すれば、十分な強度が得られるため、より好ましい。

【数5】 隔壁の厚さ(μm) ≥ 気孔率(%) × 5

【0030】 一方で、DPF等のフィルターとして用いる場合には、隔壁の厚さを、50mil以下(1270μm以下)とすることが好ましい。隔壁の厚さが50mil(1270μm)を超えると、濾過速度不足や圧損上昇が懸念されるためである。なお、これについても気孔率と密接な関係があり、隔壁の厚さと気孔率とが以下の関係を満たすように隔壁の厚さを設定することによって、問題を回避することができる。

【数6】 隔壁の厚さ(μm) ≤ 気孔率(%) × 20

【0031】 ハニカム構造体のセル密度は、5~1000セル/平方インチ(0.7~155セル/cm<sup>2</sup>)の範囲とすることが好ましい。セル密度が5セル/平方インチ(0.7セル/cm<sup>2</sup>)未満では、ハニカム構造体として強度不足となるとともに、フィルターとして用いた場合には、濾過面積も不足する。逆に、1000セル/平方インチ(155セル/cm<sup>2</sup>)を超えると圧損上昇を招くため、好ましくない。

【0032】 次に、本発明のハニカム構造体の製造方法について説明する。本発明のハニカム構造体を製造するにあたっては、まず、耐火性粒子原料に金属珪素と有機バインダーとを添加して混合及び混練し、成形用の坯土を得る。

【0033】 使用する耐火性粒子の種類は特に限定されないが、酸化物系ではAl<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、ZrO<sub>2</sub>、Y<sub>2</sub>O<sub>3</sub>、炭化物系ではSiC、窒化物系ではSi<sub>3</sub>N<sub>4</sub>、AlN、その他ムライト等の粒子が好適に用いられ、例えば、蓄積バティキュレート(蓄積バティキュレート)の燃焼処理時にしばしば高温に晒されるDPF等の用途には、SiC等が耐熱性が高く、好

適に用いられる。なお、耐火性粒子や金属珪素に用いる原料には、Fe、Al、Caなどの微量の不純物を含むケースがあるが、そのまま使用してもよく、薬品洗浄などの化学的な処理を施して精製したものを用いてもよい。

【0034】 耐火性粒子原料の平均粒径は、本製造方法にて最終的に得られるハニカム構造体(焼結体)の平均細孔径の2~4倍であることが好ましい。本製造方法で得られるハニカム構造体は、焼成温度が比較的低いために耐火性粒子原料の粒子形状や粒径が概ね焼成後まで維持される。したがって、前記比率が2倍未満であると、所望の細孔径に対して粒径が小さ過ぎ、結果的に、小さな耐火性粒子群が金属珪素で細長く結合されて大きな細孔を形成することになり、ハニカム構造体のような薄壁の構造体を維持し得る程高い強度を得ることができない。

【0035】 また、例えば耐火性粒子がSiC粒子の場合、従来多孔質ハニカム構造体に適用されてきた再結晶SiCが、その反応機構から、所望とする細孔径とほぼ同等の骨材原料粒径を必要とするのに対し、本発明のハニカム構造体のように金属珪素により結合されたSiC粒子は、粒径が細孔径の2倍以上でよいので、同じ細孔径を得ようとしたときに、再結晶SiCに比べて粗い、即ち安価な原料を使用することができ、コストメリットも大きい。

【0036】 逆に、前記比率が4倍を超える場合には、所望の細孔径に対して用いる耐火性粒子の粒径が大き過ぎ、成形の段階で耐火性粒子を密に充填することによっても、その間隙に所望の細孔を得ることが困難となり、更にフィルター用途では、気孔率低下を招く点でも好ましくない。

【0037】 金属珪素は焼成中に溶けて耐火性粒子の表面を濡らし、粒子同士を結合する役割を担う。その適切な添加量は、耐火性粒子の粒径や粒子形状によっても変わるが、耐火性粒子と金属珪素の合計量に対して5~50重量%の範囲内となるようにすることが好ましい。5重量%未満では、結合材が不足して、ハニカム構造体のような薄壁の構造体を維持し得る強度を得ることができず、逆に50重量%を超えると、適切に耐火性粒子同士を結合し得る以上に過剰に金属珪素が存在するため、気孔率低下、平均細孔径縮小などの弊害が併発してくる。

【0038】 金属珪素の平均粒径は、骨材である耐火性粒子の平均粒径の50%以下であることが好ましい。金属珪素は焼成で溶けて集合しながら耐火性粒子にまとわりつくように移動するため、その粒径が耐火性粒子の粒径の50%を超えると、成形時に同金属珪素粒子が占有していた空間が大きな空隙となっており、強度低下を招いたり、フィルターとして使用する場合にはフィルター効率低下(濾過漏れ)の原因となったりする。

【0039】 また、一般に、ハニカム構造体の押出成

形時には、粒度差のある原料粉末2種以上を混合する方が滑らかに押し出すことができ、多孔体として適切な組織を得るためにも、金属珪素の平均粒径を、骨材である耐火性粒子の平均粒径の50%以下にすることが好ましい。

【0040】 耐火性粒子を骨材とし、金属珪素及び必要に応じて造孔剤等を配合してなる坯土を、ハニカム形状に滑らかに押出成形するため、成形助剤として、1種以上の有機バインダーを、主原料（耐火性粒子原料と金属珪素）の合計量に対し外配で2重量%以上添加することが好ましい。しかしながら、30重量%を超える添加は、仮焼後に過剰な高気孔率を招き、強度不足に至らしめるため好ましくない。

【0041】 更に、隔壁の厚さが20mil(508μm)以下のハニカム構造体に押出成形する場合には、4~20重量%の範囲で添加することが好ましい。添加量が4重量%未満では斯様な薄壁に押し出すことが難しく、逆に、20重量%を超えると、押し出し後にその形状を維持することが困難となる。

【0042】 ハニカム構造体をフィルターとして使用する場合には、気孔率を高める目的で、坯土の調合時に造孔剤を添加してもよい。造孔剤の添加量は、主原料（耐火性粒子原料と金属珪素）の合計量に対し、外配で30重量%以下とすることが好ましい。添加量が30重量%を超えると、過度に気孔率が高くなり強度不足に至る。

【0043】 なお50%以上の高気孔率であるハニカム構造体を得る場合においても、造孔剤を添加することが好ましい。このとき使用する造孔剤の種類、及び平均粒径等を適宜選択することにより、細孔径分布が制御された高気孔率であるハニカム構造体を作製することができる。即ち、本発明においては骨材である耐火性粒子の粒子間の間隙が気孔となるが、骨材である耐火性粒子の平均粒径の1.2~4倍の粒径を有する造孔剤を適量添加することにより、耐火性粒子の粒子間の間隙と、造孔剤の焼失跡との2つの細孔径分布からなる細孔径分布を有する高気孔率のハニカム構造体を作製することができる。したがって、耐火性粒子及び造孔剤の粒径を適当に選択することで、必要な細孔径分布に対応した柔軟な材料設計が可能となる。

【0044】 一方、細孔径が大きいハニカム構造体を作製するために、粒径の大きな耐火性粒子や金属珪素を用いる場合においても、耐火性粒子の平均粒径の0.5倍以下の粒径を有する造孔剤を適量添加することにより、押出成形時に滑らかに坯土を押し出すことができる。したがって、成形性を下げることなく高気孔率のハニカム構造体を作製することができる。

【0045】 使用する造孔剤の種類は、特に限定されることはないが、具体的にはグラファイト、小麦粉、澱粉、フェノール樹脂、ポリメタクリル酸メチル、ポリエ

チレン、ポリエチレンテレフタレート等を挙げることができる。造孔剤は、目的に応じて1種又は2種以上組み合わせて用いてもよい。

【0046】 前記原料を常法により混合及び混練して得られた坯土を、押出成形法等により所望のハニカム形状に成形する。次いで、得られた成形体を仮焼して成形体中に含まれる有機バインダーを除去(脱脂)した後、本焼成を行う。仮焼は、金属珪素が溶融する温度より低い温度にて実施することが好ましい。具体的には、150~700℃程度の所定の温度で一旦保持してもよく、また、所定温度域で昇温速度を50℃/h以下に遅くして仮焼してもよい。

【0047】 所定の温度で一旦保持する手法については、使用した有機バインダーの種類と量により、一温度水準のみの保持でも複数温度水準での保持でもよく、更に複数温度水準で保持する場合には、互いに保持時間を同じにしても異ならせてもよい。また、昇温速度を遅くする手法についても同様に、ある一温度区域間のみ遅くしても複数区間で遅くしてもよく、更に複数区間の場合には、互いに速度を同じにしても異ならせてもよい。

【0048】 仮焼の雰囲気については、酸化雰囲気でもよいが、成形体中に有機バインダーが多く含まれる場合には、仮焼中にそれ等が酸素で激しく燃焼して成形体温度を急激に上昇せしめることがあるため、N<sub>2</sub>、Ar等の不活性雰囲気で行うことによって、成形体の異常昇温を抑制することも好ましい手法である。この異常昇温の抑制は、熱膨張係数の大きい(熱衝撃に弱い)原料を用いた場合に重要な制御である。有機バインダーを、例えば主原料に対して20重量%(外配)以上添加した場合には、前記不活性雰囲気にて仮焼するのが好ましい。また、耐火性粒子がSiC粒子である場合の他、高温での酸化が懸念されるものである場合にも、少なくとも酸化が始まる温度以上では、前記のような不活性雰囲気仮焼を行うことによって、成形体の酸化を抑制することが好ましい。

【0049】 仮焼とそれに続く本焼成は、同一のあるいは別個の炉にて、別工程として行ってもよく、また、同一炉での連続工程としてもよい。仮焼と本焼成を異なる雰囲気にて実施する場合には前者も好ましい手法であるが、総焼成時間、炉の運転コスト等の見地からは後者の手法も好ましい。

【0050】 耐火性粒子が金属珪素で結合された組織を得るためには、金属珪素が軟化する必要がある。金属珪素の融点は1410℃であるので、本焼成の際の焼成温度は1400℃以上とすることが好ましい。更に最適な焼成温度は、微構造や特性値から決定される。ただし、1800℃を超える温度では金属珪素の蒸発が進んで金属珪素を介した結合が困難になるため、焼成温度としては1400~1800℃が適当である。

【0051】 なお、前記の特開平6-182228号



公報に示される再結晶法を用いた製造方法は、炭化珪素粒子同士で結合するために高い熱伝導率の焼結体を得られるが、先に述べたように蒸発凝縮という機構で焼結するので、炭化珪素を蒸発させるために、本発明の製造方法よりも高い焼成温度を必要とし、実用上使用可能な炭化珪素焼結体を得るためには少なくとも1800℃以上、通常は2000℃以上の高温で焼成する必要がある。

【0052】 本焼成の雰囲気については、耐火性粒子の種類によって選択することが好ましく、例えば、SiCをはじめとする炭化物の粒子、Si<sub>3</sub>N<sub>4</sub>、AlNに代表される窒化物の粒子等、高温での酸化が懸念されるものについては、少なくとも酸化が始まる温度以上の温度域においては、N<sub>2</sub>、Ar等の非酸化雰囲気とすることが好ましい。

【0053】

【実施例】 以下、本発明を実施例に基づいて更に詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例に限定されるものではない。

【0054】（実施例1～13、比較例1～2）表1に示すような平均粒径を有するSiC原料粉末と、平均粒径4μmの金属Si粉末とを、同表に示す組成となるように配合し、この粉末100重量部に対して、有機バイ\*

\*ンダーとしてメチルセルロース6重量部、界面活性剤2.5重量部、及び水24重量部を加え、均一に混合及び混練して成形用の坏土を得た。得られた坏土を、押出成形機にて外径45mm、長さ120mm、隔壁厚さ0.43mm、セル密度100セル/平方インチ（16セル/cm<sup>2</sup>）のハニカム形状に成形した。このハニカム成形体を酸化雰囲気において550℃で3時間、脱脂のための仮焼を行った後、非酸化雰囲気において表1に示す焼成温度にて2時間の焼成を行い、多孔質でハニカム構造の炭化珪素焼結体を作製した。この焼結体について、水銀ポロシメーターにて平均細孔径と気孔率を、また、レーザーフラッシュ法にて熱伝導率をそれぞれ測定し、更に4点曲げ強度を測定して、その結果を表1に示した。また図2に、実施例1において作製した炭化珪素質焼結体の結晶構造である顕微鏡写真を示した。更に、配合した金属Si粉末の量（wt%）に対して気孔率（%）、強度（MPa）、熱伝導率（W/mK）をプロットしたグラフを図1に示した。なお、X線回折にて結晶相を同定したところ、SiC及びSiからなっていることが確認された。

【0055】

【表1】

	SiC粉末の 平均粒径 (μm)	SiC粉末の配 合量 (wt%)	金属Si粉末 の平均粒径 (μm)	金属Si粉末 の配合量 (wt%)	焼成温度 (℃)	平均細孔径 (μm)	気孔率 (%)	4点曲げ強度 (MPa)	熱伝導率 (W/mK)
実施例1	32.6	80	4	20	1450	9.0	49.0	20	21
実施例2	32.6	80	4	20	1600	10.0	44.0	25	20
実施例3	32.6	65	4	35	1450	12.0	45.0	25	25
実施例4	32.6	65	4	35	1600	13.0	42.0	28	26
実施例5	50.0	80	4	20	1450	11.6	45.0	20	21
実施例6	50.0	80	4	20	1600	13.5	49.0	22	20
実施例7	32.6	90	4	10	1450	9.0	45.0	16	15
実施例8	32.6	85	4	15	1450	9.0	47.0	20	20
実施例9	32.6	80	12	20	1450	11.0	43.0	20	20
実施例10	32.6	80	30	20	1450	13.0	42.0	18	25
実施例11	32.6	70	4	30	1450	12.0	47.0	27	23
実施例12	32.6	60	4	40	1450	12.0	43.0	23	28
実施例13	32.6	55	4	45	1450	14.0	40.0	20	30
比較例1	32.6	97	4	3	1450	8.0	45.0	3	3
比較例2	32.6	45	4	55	1450	16.0	25.0	18	23

【0056】（考察）比較例1においては強度・熱伝導率の低下、比較例2においては気孔率の低下を確認することができた。これに対し、本発明に係る実施例1～13においては例えば、ディーゼルエンジンから排出される排気ガス中に含まれるバディキュレートを捕集除去するためのDPF等として用いる場合に要求される気孔率・強度・熱伝導率について、十分な数値を示している。また、図1に示すグラフから、金属Si粉末の好適な添加量は、SiC原料粉末と金属Si粉末の合計量に対して5～50重量%の範囲に存在することがわかる。この

ことにより、本発明の優れた効果を確認することができた。

【0057】（実施例14～20）表2に示すような平均粒径を有するSiC原料粉末、金属Si粉末を、同表の組成となるように配合し、さらにこの粉末100重量部に対して、造孔剤としてポリメタクリル酸メチルの粉末を同表に示す重量部、有機バインダーとしてメチルセルロース8重量部、界面活性剤2.5重量部、及び水28重量部を加え、その後は実施例1～13と同様の方法にてハニカム構造の炭化珪素焼結体を作製した。なお焼

成温度はいずれも1450℃にて行った。この焼結体について、水銀ボロシメーターにより平均細孔径と気孔率を、またレーザーフラッシュ法にて熱伝導率をそれぞれ\*

\*測定した。

【0058】

【表2】

	SiC粉末の 平均粒径 ( $\mu\text{m}$ )	SiC粉末の配 合量 (wt%)	金属Si粉末 の平均粒径 ( $\mu\text{m}$ )	金属Si粉末 の配合量 (wt%)	造孔剤の平均 粒径( $\mu\text{m}$ )	造孔剤の 配合量 (%)	気孔率 (%)	平均細孔径 ( $\mu\text{m}$ )	熱伝導率 (W/mK)
実施例14	32.6	80	4	20	60	20	58.0	21.0	14
実施例15	32.6	75	4	25	12	14	53.0	13.0	25
実施例16	47.0	85	12	15	12	20	60.0	18.0	12
実施例17	47.0	80	12	20	12	20	58.0	15.0	16
実施例18	68.0	85	12	15	30	20	55.0	30.0	18
実施例19	68.0	90	12	10	60	25	66.0	40.0	10
実施例20	32.6	80	4	20	60	30	70.0	25.0	9

【0059】(考察)表2から明らかなように、本発明のハニカム構造体は、例えば、触媒を担持させた自動車排気ガス浄化用のフィルター等として用いる場合に要求される気孔率、熱伝導率及び平均細孔径について、十分な数値を示している。また、骨材であるSiC粉末の粒径を大きくした場合(実施例16～19)であっても、造孔剤の粒径や配合量を調整することによって、成形不良を起こすことなくハニカム構造体を作製することができた。このことにより、本発明の優れた効果を確認することができた。

【0060】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明のハニカム構造体は、炭化珪素粒子等の耐火性粒子を含みながらも、その製造時において比較的低い焼成温度で焼結させることができるので、製造コストを抑えるとともに歩留まりも向上し、安価に提供することができる。また、ガラス質を利用して耐火性粒子を結合させた従来の構造体※30

※に比して高い熱伝導率を有するので、例えばDPFに使用した場合において、フィルター再生のために堆積したバディキュレートを燃焼させても、フィルターを損傷させるような局所的な発熱が生じない。更に、気孔率や熱伝導率が所定の数値範囲であり、圧力損失の低い多孔質のハニカム構造体であるので、触媒を担持させた自動車排気ガス浄化用のフィルター等として高SV条件下でも好適に使用できる。

【図面の簡単な説明】

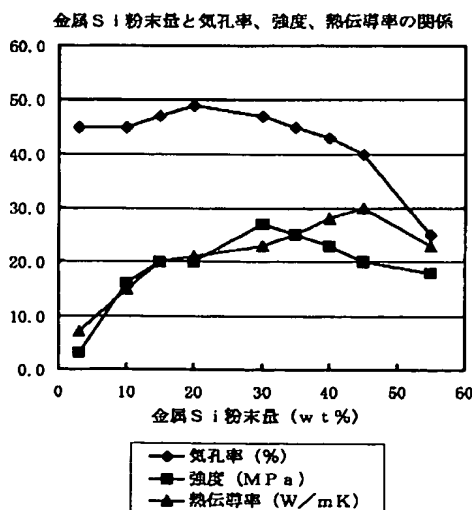
【図1】 配合した金属Si粉末の量(wt%)に対して気孔率(%)、強度(MPa)、熱伝導率(W/mK)をプロットしたグラフである。

【図2】 実施例1において作製した炭化珪素質焼結体の結晶構造である顕微鏡写真である。

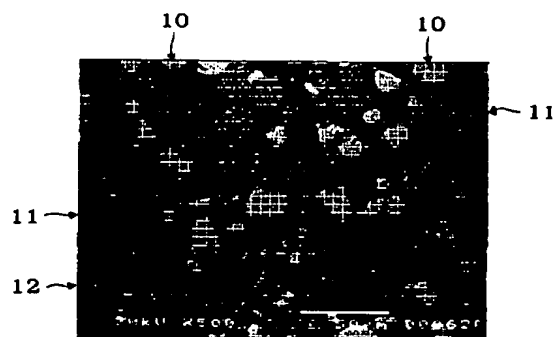
【符号の説明】

10…金属珪素、11…炭化珪素粒子、12…気孔。

【図1】



【図2】



## フロントページの続き

(51)Int.Cl. <sup>7</sup>	識別記号	F I	テーマコード (参考)
B 0 1 J 35/04	3 0 1	B 0 1 J 35/04	3 0 1 Z
C 0 4 B 38/06		C 0 4 B 38/06	B
F 0 1 N 3/02	3 0 1	F 0 1 N 3/02	3 0 1 B
		B 0 1 D 53/36	Z A B C
(72)発明者 川崎 真司		F ターム (参考)	3G090 AA02
愛知県名古屋市瑞穂区須田町 2 番 56 号 日			4D019 AA01 AA03 BA05 BB06 BC12
本碍子株式会社内			BC20 BD01 BD10 CA01 CB04
(72)発明者 阪井 博明			CB06
愛知県名古屋市瑞穂区須田町 2 番 56 号 日			4D048 BB02 BB17 BB20
本碍子株式会社内			4G019 FA12 FA13 GA04 JA02
			4G069 AA01 AA08 CA02 CA03 DA06
			EA19 EB12X EB12Y EB15X
			EB15Y EC17X EC17Y EC27

## \* NOTICES \*

JPO and INPIT are not responsible for any damages caused by the use of this translation.

- 1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
- 2.\*\*\*\* shows the word which can not be translated.
- 3.In the drawings, any words are not translated.

---

## CLAIMS

---

[Claim(s)]

[Claim 1]A honeycomb structured body characterized by being porosity including fireproof particles and metal silicon which are the honeycomb structured bodies which have a circulating hole of a large number penetrated to shaft orientations divided by a septum, and serve as aggregate.

[Claim 2]The honeycomb structured body according to claim 1 which has the structure where said fireproof particle was combined with said metal silicon in a part of the fireproof particle surface.

[Claim 3]The honeycomb structured body according to claim 1 whose thermal conductivity is 5 or more W/mK.

[Claim 4]The honeycomb structured body according to claim 1 which has the structure combined with said metal silicon after said fireproof particle had stopped the raw material particle shape.

[Claim 5]The honeycomb structured body according to claim 1 in which said fireproof particles are silicon carbide particles.

[Claim 6]The honeycomb structured body according to claim 1 used as a filter which carries out catching removal of the particulate matter contained in dust-containing fluid.

[Claim 7]The honeycomb structured body according to claim 1 in a range whose porosity is 30 to 90%.

[Claim 8]The honeycomb structured body according to claim 1 which has an average pore size in a range which is 2-50 micrometers.

[Claim 9]The honeycomb structured body according to claim 2 which has thermal conductivity in the range of 5 - 30 W/mK while being in a range whose porosity is 50 to 90%.

[Claim 10]The honeycomb structured body according to claim 1 whose content of said metal silicon is 5 to 50% of the weight of a range to the total quantity of said fireproof particle raw

materials and metal silicon.

[Claim 11]The honeycomb structured body according to claim 1 whose thickness of said septum is 102-1270 micrometers.

[Claim 12]The honeycomb structured body according to claim 1 with which thickness of said septum and porosity of a honeycomb structured body fill the following relations.

[Equation 1]Thickness (micrometer)  $\geq$  porosity (%)  $\times 4$  of a septum [Claim 13]The honeycomb structured body according to claim 1 with which thickness of said septum and porosity of a honeycomb structured body fill the following relations.

[Equation 2]Thickness (micrometer)  $\geq$  porosity (%)  $\times 5$  of a septum [Claim 14]The honeycomb structured body according to claim 1 with which thickness of said septum and porosity of a honeycomb structured body fill the following relations.

[Equation 3]Thickness (micrometer)  $\leq$  porosity (%)  $\times 20$  of a septum [Claim 15]The honeycomb structured body according to claim 1 whose cell densities are 0.7 to 155 cell /cm<sup>2</sup>.

[Claim 16]A manufacturing method of a honeycomb structured body characterized by carrying out actual calcination after carrying out temporary quenching of the Plastic solid acquired by adding metal silicon and an organic binder to fireproof particle raw materials, and fabricating a plastic matter produced by mixing and kneading to honeycomb shape and removing an organic binder in a Plastic solid.

[Claim 17]The manufacturing method according to claim 16 in which said fireproof particle raw materials are silicon carbide particle raw materials.

[Claim 18]The manufacturing method according to claim 16 whose mean particle diameter of said fireproof particle raw materials is 2 to 4 times the average pore size of a honeycomb structured body obtained eventually.

[Claim 19]The manufacturing method according to claim 16 whose addition of said metal silicon is 5 to 50% of the weight of a range to the total quantity of said fireproof particle raw materials and metal silicon.

[Claim 20]The manufacturing method according to claim 16 whose mean particle diameter of said metal silicon is 50% or less of the mean particle diameter of fireproof particles which are aggregate.

[Claim 21]The manufacturing method according to claim 16 which adds said organic binder in 2 to 30% of the weight of the range by outside \*\* to the total quantity of said fireproof particle raw materials and metal silicon.

[Claim 22]The manufacturing method according to claim 16 which adds an ostomy agent in 30 or less % of the weight of the range by outside \*\* to the total quantity of said fireproof raw material particle and metal silicon when preparing said plastic matter.

[Claim 23]The manufacturing method according to claim 16 which carries out temporary quenching of said Plastic solid at a temperature lower than temperature which said metal

silicon fuses.

[Claim 24]The manufacturing method according to claim 16 which carries out said this calcination in a 1400-1800 \*\* temperature requirement.

---

[Translation done.]

## \* NOTICES \*

JPO and INPIT are not responsible for any damages caused by the use of this translation.

- 1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
- 2.\*\*\*\* shows the word which can not be translated.
- 3.In the drawings, any words are not translated.

---

## DETAILED DESCRIPTION

---

[Detailed Description of the Invention]

[0001]

[Field of the Invention]This invention relates to the honeycomb structured body used for a filter, catalyst support, etc. for motor exhaust purification.

[0002]

[Description of the Prior Art]The porous honeycomb structured body is widely used as catalyst support for supporting the catalyst component which purifies the toxic substance in the filter for carrying out catching removal of the particulate matter contained in dust-containing fluid like diesel-power-plant exhaust gas, or exhaust gas. Using fireproof particles like silicon carbide (SiC) particles as a component of such a honeycomb structured body is known.

[0003]As a concrete pertinent art, for example to JP,6-182228,A. While having predetermined specific surface area, silicon carbide powder containing an impurity is used as a starting material, and the nature catalyst support of porous silicon carbide of the honeycomb structure acquired by calcinating this after shaping and desiccation in desired shape in a 1600-2200 \*\* temperature requirement is indicated.

[0004]On the other hand, a vitrification raw material is added to the refractory composition which contains an easy-oxidizability raw material or an easy-oxidizability raw material in JP,61-26550,A, The manufacturing method of the vitrification raw material content refractories mixing, kneading and fabricating and carrying out nakedness calcination of the fabricated Plastic solid within the furnace of a non-oxidizing atmosphere with binding material to silicon carbide powder at JP,8-165171,A An organic binder, The silicon carbide Plastic solid which adds and fabricates the inorganic binder of an argillite system, textile glass yarn, and a silicic acid lithium system is indicated, respectively.

[0005]To said JP,6-182228,A. After adding and fabricating binding material, such as glassiness flux or argillaceous, to the carbonization system elementary particle used as

aggregate as a manufacturing method of the conventional nature sintered compact of porous silicon carbide, the method of burning, hardening and manufacturing the Plastic solid at the temperature which said binding material fuses is also introduced.

[0006]To JP,61-13845,B and JP,61-13846,B. Metallic oxides, such as silica sand, a pottery grinding thing, aluminum<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, TiO<sub>2</sub>, and ZrO<sub>2</sub>, The fireproof particles by which the particle size regulation was carried out to the prescribed particle size which consists of silicon carbide, a nitride, boride, or other fireproof materials, The suitable fireproof particle pitch diameter, fireproof particle particle size distribution, tube-like object porosity, a tube-like object average pore size, tube-like object pore volume, tube-like object septum thickness, etc. are indicated about the high-temperature-service ceramic filter formed in the porous cylinder-like-object-with-base-like object with fireproof binding material, such as water glass, fritto, and a cover coat.

[0007]In JP,8-13706,B, The manufacturing method of the silicon carbide / metal silicon complex which has the structure joined to one via metal silicon, and said complex using the silicon carbide and metal silicon which heat-treated the silicon accumulation biomass under argon or a nitrogen atmosphere, and were formed is indicated.

[0008]

[Problem(s) to be Solved by the Invention]Although a silicon carbide ingredient evaporates from a silicon carbide particle surface, a neck part grows and an integrated state is acquired by this condensing to the contact portion (neck part) between particles in the sintering gestalt (necking) by the recrystallization reaction of the silicon carbide powder itself shown in said JP,6-182228,A, In order for this to have to cause a high cost since very high calcination temperature is required, and to evaporate silicon carbide and to have to carry out high temperature firing of the material with a high coefficient of thermal expansion, there was a problem that the calcination yield fell.

[0009]If it is going to manufacture the filter which is high porosity, and the filter which has especially the porosity of not less than 50% by sintering by the recrystallization reaction of the above silicon carbide powder itself, Since the sintering-machine style concerned stopped fully functioning, growth of the neck part was barred, and it had the fault that will originate in this and the intensity of a filter will fall.

[0010]In that the above-mentioned material has thermal conductivity dramatically as high as 30 or more W/mK, and local generation of heat is suppressed, though advantageous, For example, a catalyst is supported, and when a particulate is used for the filter of the method which oxidizes and burns and is reproduced continuously, time is dramatically taken for the temperature of a carrier to go up according to the feature that there is little particulate alimentation and it radiates heat easily. Therefore, in order to take time for temperature to go up to the temperature as which a catalyst functions, the particulate cinder arose and it also had problems, like regeneration efficiency falls.



[0011]The technique of combining coal-for-coke-making-sized silicon powder by glassiness shown in JP,61-26550,A or JP,6-182228,A, Although it is low and ends with 1000-1400 \*\* as calcination temperature, For example, in using as a material of the diesel particulate filter (DPF) for removing the particulate contained in the exhaust gas discharged from a diesel power plant in the sintered compact produced by this technique, When it was going to burn the particulate which it was caught by the filter and deposited for filter regeneration, since thermal conductivity was small, there was a problem that local generation of heat arose.

[0012]Although the filter shown in JP,61-13845,B and JP,61-13846,B was porosity, septa are 5-20 mm and a thick cylinder-like-object-with-base-like object, and it was not able to be applied under a high SV (space velocity) condition like the filter for motor exhaust purification.

[0013]Although the complex concerned can also be made into porosity in a complex shown in JP,8-13706,B, and a manufacturing method for the same, It was not easy to face to use it as a filter and to secure sufficient porosity, and it was difficult to use it as a filter for carrying out catching removal of the particulate matter contained in dust-containing fluid like diesel-power-plant exhaust gas especially in the complex concerned.

[0014]The purpose of this invention is as follows.

Though it is made in view of such a conventional situation and fireproof particles like silicon carbide particles are included, it can manufacture cheaply with comparatively low calcination temperature.

Thermal conductivity is set as the moderate numerical value, and fully provide the honeycomb structured body which can be conveniently used also under high SV conditions as a filter for motor exhaust purification by processing of sealing, catalyst support, etc. with porosity and high specific surface area, and its manufacturing method.

[0015]

[Means for Solving the Problem]According to this invention, it is a honeycomb structured body which has a circulating hole of a large number penetrated to shaft orientations divided by a septum, and honeycomb structured body \*\* being porosity is provided including fireproof particles and metal silicon used as aggregate.

[0016]According to this invention, add metal silicon and an organic binder to fireproof particle raw materials, and a plastic matter produced by mixing and kneading is fabricated to honeycomb shape, After carrying out temporary quenching of the acquired Plastic solid and removing an organic binder in a Plastic solid, manufacturing method \*\* of a honeycomb structured body carrying out actual calcination is provided.

[0017]

[Embodiment of the Invention]Since metal silicon for the honeycomb structured body of this invention to combine these refractoriness particles with fireproof particles as aforementioned is

included, it can be made to sinter with comparatively low calcination temperature at the time of the manufacture, and the yield can be raised while holding down a manufacturing cost. Since it has high thermal conductivity as compared with the conventional structure which used glassiness for combination of fireproof particles by having used metal silicon for combination of fireproof particles, For example, when it is used for DPF, even if it burns the particulate deposited for filter regeneration, local generation of heat which damages a filter does not arise. Since this invention is not the cylinder-like-object-with-base-like object of a thick wall as shown in JP,61-13845,B or JP,61-13846,B but a porous honeycomb structured body, it can be used under high SV conditions as a filter, catalyst support, etc. for motor exhaust purification.

[0018]As for the honeycomb structured body of this invention, it is preferred that the fireproof particles which constitute the honeycomb structured body concerned have the structure combined with metal silicon in a part of the particle surface. It is a honeycomb structured body concerning this invention, and the microphotograph which is a crystal structure of the nature sintered compact of silicon carbide is shown in drawing 2. The metal silicon 10 and a gray portion are [ the silicon carbide particles 11 and the black part of a white part ] the stomata 12 among a figure. Thus, it turns out that the particles to which the silicon carbide particles 11 which are fireproof particles exist in the circumference in a part of the particle surface are combined with the metal silicon 10. The manufacturing method of the nature sintered compact of silicon carbide shown in drawing 2 is mentioned later.

[0019]Since the above-mentioned structure is formed without using metal silicon more than needed, it can suppress eburnation by fusion of the metal silicon comrade who occurs in the process of calcination. For this reason, sufficient porosity is secured although the pressure loss at the time of using as a filter is suppressed low. While the high porosity in the case of using as DPF for carrying out catching removal of the particulate contained in the exhaust gas discharged, for example from a diesel power plant since it also has high thermal conductivity therefore, etc. is fully secured, Even if it burns the particulate deposited for filter regeneration, since it has high thermal conductivity, local generation of heat which a filter damages does not arise.

[0020]As for the honeycomb structured body of this invention, it is preferred that the viewpoint of avoiding the above local generation of heat to the thermal conductivity is 5 or more W/mK.

[0021]As for the honeycomb structured body of this invention, it is preferred to have the structure combined with metal silicon as the microstructure after fireproof particles had stopped the raw material particle shape. When using the particulate matter contained in dust-containing fluid in the honeycomb structured body of this invention as a filter for carrying out catching removal, it is preferred to make the porosity into 30 to 90% of range. If the porosity of a honeycomb structured body runs short of filtration velocity at less than 30% and exceeds 90%, the intensity as a structure runs short. When using for the use for which we are anxious about

pressure losses, such as a filter for motor exhaust purification, it is preferred to make porosity into not less than 40%.

[0022]In being a honeycomb structured body used as filters which must suppress pressure loss low, such as a filter etc. of the method which supports a catalyst and burns a particulate continuously, It is preferred that there is porosity to 50 to 90%, and thermal conductivity is in the range of 5 - 30 W/mK, it is still more preferred that there is porosity to 50 to 80%, and thermal conductivity is in the range of 7 - 28 W/mK, and especially the thing that there is porosity to 53 to 70%, and thermal conductivity is in the range of 9 - 25 W/mK is preferred.

[0023]In the honeycomb structured body used as a filter of the method which makes a catalyst support, since pressure loss goes up by supporting a catalyst, it is necessary to set up porosity highly beforehand. Therefore, in less than 50%, since pressure loss becomes large with the filter of this method, porosity is not preferred. On the other hand, if porosity exceeds 90%, since the intensity as a structure runs short, it is not desirable.

[0024]In the honeycomb structured body used as a filter of said method, it is necessary to suppress that local stress occurs in a filter by generating of the uneven temperature distribution by local generation of heat. Therefore, thermal conductivity becomes difficult [ it / to suppress local generation of heat effectively ] in less than 5 W/mK. it originating in that the effect of heat dissipation is large, that there is little particulate alimentation, etc. on the other hand, if thermal conductivity exceeds 30 W/mK, and, while taking great time to carry out temperature up even to the temperature as which a catalyst functions that it is hard to go up temperature, Since a particulate cinder may arise and the regeneration efficiency of a filter may fall, it is not desirable.

[0025]With the catalyst supported by the filter as used in the field of this invention. Although it is a catalyst used for the purpose of particulate oxidation combustion and decomposition of  $\text{NO}_x$  and oxides, such as the precious metals, such as platinum, palladium, rhodium, iridium, and silver, or alumina, zirconia, a titania, Seria, and iron oxide, etc. can specifically be used, This invention is not limited to these things.

[0026]As for the average pore size of a honeycomb structured body, when using the honeycomb structured body of this invention as a filter similarly, determining according to the object to filter is preferred. For example, when using as DPF for carrying out catching removal of the particulate contained in the exhaust gas discharged from a diesel power plant, it is preferred to make an average pore size into the range of 2-50 micrometers. if a pressure loss goes up remarkably and it exceeds 50 micrometers conversely also by small-quantity deposition of the particulate [ average pore size ] in less than 2 micrometers -- particulate base -- since an omission happens, it is not desirable.

[0027]Although the suitable content of metal silicon in the honeycomb structured body of this invention changes also with the particle diameter and particle shape of fireproof particles, it is

preferred to carry out to the total quantity of fireproof particles and metal silicon 5 to 50% of the weight of within the limits, and it is still more preferred to carry out 15 to 40% of the weight of within the limits. Not only thermal conductivity falls, but as for combination by metal silicon of the fireproof particles which adjoin since binding material is insufficient, less than 5 % of the weight is insufficient, and it becomes difficult to obtain the intensity which can maintain the structure of a thin wall like honeycomb structure. Conversely, if it exceeds 50 % of the weight, in the point which originates in metal silicon existing more than it can combine fireproof particles appropriately, and a honeycomb structured body (sintered compact) contracts too much by sintering, and evils, such as a porosity fall and average pore size reduction, concur with, it is not desirable.

[0028]As for the thickness of the septum into which the circulating hole (cell) of a honeycomb structured body is divided, it is preferred to be referred to as not less than (not less than 102 micrometers) 4 mil. As for the intensity as a structure, less than 4 mil (102 micrometers) is [ the thickness of a septum ] insufficient. When intensity has porosity and a close relation, and in the case of the honeycomb structured body of this invention setting up the thickness of the septum so that the thickness and the porosity of a septum might fill the following relations, required intensity was obtained and the desirable thing became clear.

[Equation 4]Thickness (micrometer)  $\geq$  porosity (%)  $\times 4$  of a septum [0029]Since sufficient intensity will be obtained if the thickness of a septum is set up so that the thickness and the porosity of a septum may fill the following relations, it is more desirable.

[Equation 5]Thickness (micrometer)  $\geq$  porosity (%)  $\times 5$  of a septum [0030]On the other hand, when using as filters, such as DPF, it is preferred that the thickness of a septum shall be 50 mil or less (1270 micrometers or less). When the thickness of a septum exceeds 50 mil (1270 micrometers), it is for being anxious about the shortage of filtration velocity, or a pressure drop buildup. A problem is avoidable by there being a close relation to porosity also about this, and setting up the thickness of a septum so that the thickness and the porosity of a septum may fill the following relations.

[Equation 6]Thickness (micrometer)  $\leq$  porosity (%)  $\times 20$  of a septum [0031]As for the cell density of a honeycomb structured body, it is preferred to consider it as the range of 5-1000 cell / square inch (0.7 to 155 cell /cm<sup>2</sup>). cell density -- 5 cells / square -- in less than an inch (0.7 cell /cm<sup>2</sup>), while becoming insufficient strength as a honeycomb structured body, when it uses as a filter, filtration areas also run short. On the contrary, it is not desirable in order to cause a pressure drop buildup, if 1000 cell / square inch (155 cells /cm<sup>2</sup>) is exceeded.

[0032]Next, a manufacturing method of a honeycomb structured body of this invention is explained. In manufacturing a honeycomb structured body of this invention, first, metal silicon and an organic binder are added to fireproof particle raw materials, it mixes and kneads to

them, and a plastic matter for shaping is obtained.

[0033]Although a kind in particular of fireproof particles to be used is not limited, in oxide stock aluminum<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, By ZrO<sub>2</sub>, Y<sub>2</sub>O<sub>3</sub>, and a carbide system, in SiC and a nitride system, Si<sub>3</sub>N<sub>4</sub>, Heat resistance of SiC is high for uses, such as DPF which particles, such as AlN and other mullites, are used suitably, for example, is often exposed to an elevated temperature at the time of combustion treatment of an accumulation particulate, and they are suitably used for them. Although a case containing a small amount of impurities, such as Fe, aluminum, and Ca, is among raw materials used for fireproof particles or metal silicon, it may be used as it is and what performed and refined chemical processing of medicine washing etc. may be used.

[0034]As for mean particle diameter of fireproof particle raw materials, it is preferred that it is 2 to 4 times the average pore size of a honeycomb structured body (sintered compact) eventually obtained with this manufacturing method. Since a honeycomb structured body obtained with this manufacturing method has comparatively low calcination temperature, particle shape and particle diameter of fireproof particle raw materials are maintained in general until after calcination. Therefore, particle diameter is too small to a desired pole diameter in it being said twice [ less than ] ratio of this, as a result, it will be combined long and slender with metal silicon, a fireproof small particle group will form big fine pores, and such high intensity cannot be obtained that a structure of a thin wall like a honeycomb structured body can be maintained.

[0035]The recrystallization SiC conventionally applied to a porosity honeycomb structured body when fireproof particles are SiC particles, for example, SiC particles combined with metal silicon like a honeycomb structured body of this invention to needing aggregate raw material particle diameter almost equivalent to a pole diameter considered as a request from the reaction mechanism, Since particle diameter may be more than twice the pole diameter, when it is going to obtain the same pole diameter, compared with the recrystallization SiC, a coarse, i.e., are cheap, raw material can be used, and a cost merit is also large.

[0036]On the contrary, when said ratio exceeds 4 times, particle diameter of fireproof particles used to a desired pole diameter is too large, and it is not desirable by being densely filled up with fireproof particles in a stage of shaping at a point which becomes difficult [ it / to obtain desired fine pores ] for the gap, and also causes a porosity fall in a filter use.

[0037]Metal silicon melts during calcination, wets the surface of fireproof particles, and bears a role which combines particles. Although the suitable addition changes also with particle diameter and particle shape of fireproof particles, it is preferred to make it become to the total quantity of fireproof particles and metal silicon 5 to 50% of the weight of within the limits. Since metal silicon exists superfluously more than it can combine fireproof particles appropriately if binding material is insufficient, and intensity which can maintain a structure of a thin wall like honeycomb structure cannot be obtained in less than 5 % of the weight but it exceeds 50 % of

the weight conversely, Evils, such as a porosity fall and average pore size reduction, occur at the same time.

[0038]As for mean particle diameter of metal silicon, it is preferred that it is 50% or less of the mean particle diameter of fireproof particles which are aggregate. In order that metal silicon may move melting and gathering by calcination so that it may coil around fireproof particles, If the particle diameter exceeds 50% of particle diameter of fireproof particles, space which the metal silicon particle occupied at the time of shaping serves as a big opening, and remains, strength reduction is caused, or in using it as a filter, it will become a cause of filter degradation (leakage in filtration).

[0039]Also in order for a direction which generally mixes two or more sorts in the end of precursor powder a particle size difference is at the time of extrusion molding of a honeycomb structured body to be able to extrude smoothly and to obtain an organization suitable as a porous body, it is preferred to make mean particle diameter of metal silicon into 50% or less of mean particle diameter of fireproof particles which are aggregate.

[0040]In order to carry out extrusion molding of the plastic matter which uses fireproof particles as aggregate and blends an ostomy agent etc. metal silicon and if needed to honeycomb shape smoothly, It is preferred to add one or more sorts of organic binders 2% of the weight or more by outside \*\* as a forming assistant to the total quantity of the main raw material (fireproof particle raw materials and metal silicon). However, in order that addition exceeding 30 % of the weight may cause superfluous high porosity and may make insufficient strength result after temporary quenching, it is not preferred.

[0041]When thickness of a septum carries out extrusion molding to a honeycomb structured body below 20 mil (508 micrometers), it is preferred to add in 4 to 20% of the weight of the range. an addition -- less than 4 % of the weight -- \*\* -- it is difficult to extrude to a thin wall [ like ], and conversely, if it exceeds 20 % of the weight, it will become difficult to maintain the shape after extrusion.

[0042]When using a honeycomb structured body as a filter, an ostomy agent may be added at the time of preparation of a plastic matter in order to raise porosity. As for an addition of an ostomy agent, it is preferred to consider it as 30 or less % of the weight by outside \*\* to the total quantity of the main raw material (fireproof particle raw materials and metal silicon). If an addition exceeds 30 % of the weight, porosity will become high too much and it will result in insufficient strength.

[0043]When obtaining a honeycomb structured body which is the high porosity of not less than 50%, it is preferred to add an ostomy agent. A honeycomb structured body which is the high porosity by which pore volume distribution was controlled is producible by choosing suitably a kind of ostomy agent used at this time, mean particle diameter, etc. Namely, although a gap between particles of fireproof particles which are aggregate serves as a stoma in this

invention, By carrying out adequate amount addition of the ostomy agent which has mean particle diameter 1.2 to 4 times the particle diameter of fireproof particles which are aggregate, a honeycomb structured body of high porosity which has the pore volume distribution which consists of two pore volume distribution of a gap between particles of fireproof particles and the remains of destruction by fire of an ostomy agent is producible. Therefore, a flexible materials design corresponding to required pore volume distribution becomes possible by choosing suitably particle diameter of fireproof particles and an ostomy agent.

[0044]On the other hand, in order that a pore diameter may produce a large honeycomb structured body, when using fireproof big particles and metal silicon of particle diameter, a plastic matter can be smoothly extruded at the time of extrusion molding by carrying out adequate amount addition of the ostomy agent which has 0.5 or less time [ of mean particle diameter of fireproof particles ] particle diameter. Therefore, a honeycomb structured body of high porosity can be produced, without lowering a moldability.

[0045]Although a kind in particular of ostomy agent to be used is not limited, it can specifically mention graphite, wheat flour, starch, phenol resin, poly methyl methacrylate, polyethylene, polyethylene terephthalate, etc. an ostomy agent responds to the purpose -- one sort -- or two or more sorts may be combined and it may use.

[0046]A plastic matter mixed, and kneaded and obtained by a conventional method in said raw material is fabricated to desired honeycomb shape by an extrusion method etc. Subsequently, this calcination is performed after removing an organic binder which carries out temporary quenching of the acquired Plastic solid, and is contained in a Plastic solid (degreasing). As for temporary quenching, it is preferred to carry out at a temperature lower than temperature which metal silicon fuses. It may once hold at a predetermined temperature of about 150-700 \*\*, and to below 50 \*\* / hr, a heating rate may be made late and, specifically, temporary quenching may be carried out in a prescribed temperature region.

[0047]When maintenance or maintenance by two or more temperature levels of only one temperature level may be sufficient and also it holds by two or more temperature levels with a kind and quantity of an organic binder which were used, retention time may be mutually made the same, or it may be made to differ about a technique once held at a predetermined temperature. Between a certain 1 temperature-province regions may be similarly made late about the technique of making a heating rate late, it may be made late among the two or more division, and also in between the two or more division, speed may be mutually changed also as the same.

[0048]Although an oxidizing atmosphere may be sufficient about atmosphere of temporary quenching, when many organic binders are contained in a Plastic solid, In order that it etc. may burn violently with oxygen and may make Plastic solid temperature rise rapidly during temporary quenching, it is also a desirable technique by carrying out by inert atmospheres,

such as  $N_2$  and Ar, to control an abnormal temperature rise of a Plastic solid. Control of this abnormal temperature rise is important control when a raw material with a large (weak to a thermal shock) coefficient of thermal expansion is used. It is preferred to carry out temporary quenching of the organic binder in said inert atmosphere, when it adds more than 20 % of the weight (outside \*\*), for example to the main raw material. Also when it is what is anxious about oxidation in an elevated temperature besides in case fireproof particles are SiC particles, it is preferred to control oxidation of a Plastic solid by performing temporary quenching according to the above inert atmospheres above temperature from which oxidation begins at least.

[0049]A same or separate furnace may perform temporary quenching and this calcination following it as a separated process, and they are good also as a continuous process in the same furnace. When carrying out temporary quenching and this calcination in a different atmosphere, the former is a desirable technique, and from standpoints, such as operating cost of the total firing time and a furnace, the latter technique is also preferred.

[0050]Metal silicon needs to become soft in order for fireproof particles to obtain an organization combined with metal silicon. As for calcination temperature in the case of this calcination, since the melting point of metal silicon is 1410 \*\*, it is preferred to consider it as not less than 1400 \*\*. Optimal calcination temperature is determined from a microstructure or weighted solidity. However, since combination which evaporation of metal silicon progressed at temperature over 1800 \*\*, and passed metal silicon becomes difficult, as calcination temperature, 1400-1800 \*\* is suitable.

[0051]In order to combine a manufacturing method using recrystallizing method shown in aforementioned JP,6-182228,A by silicon carbide particles, a sintered compact of high thermal conductivity is obtained, but. Calcination temperature higher than a manufacturing method of this invention since it sinters by an evaporation condensation mechanism in which it stated previously, in order to evaporate silicon carbide is needed, and in order to obtain a practically usable silicon carbide sintered compact, it is usually necessary to calcinate not less than at least 1800 \*\* at a not less than 2000 \*\* elevated temperature.

[0052>About atmosphere of this calcination, choosing according to a kind of fireproof particles is preferred, For example, in a temperature region beyond temperature from which oxidation begins at least, particles etc. of a nitride represented by particles of carbide including SiC,  $Si_3N_4$ , and AlN of considering it as non-oxidizing atmospheres, such as  $N_2$  and Ar, are preferred about what is anxious about oxidation in an elevated temperature.

[0053]

[Example]Hereafter, although this invention is explained still in detail based on an example, this invention is not limited to these examples.

[0054](Examples 1-13, comparative examples 1-2) The SiC raw material powder which has mean particle diameter as shown in Table 1, Metal Si powder with a mean particle diameter of



4 micrometers was blended so that it might become the presentation shown in the table, and to this powder 100 weight section, methyl cellulose 6 weight section, surface-active agent 2.5 weight section, and water 24 weight section were added as an organic binder, it mixed and kneaded uniformly, and the plastic matter for shaping was obtained. The obtained plastic matter was fabricated with the extruding press machine to the outer diameter of 45 mm, 120 mm in length, septum 0.43 mm in thickness, and the honeycomb shape of the cell density 100 cell / square inch ( $16 \text{ cells / cm}^2$ ). Calcination of 2 hours was performed with the calcination temperature which shows this honeycomb Plastic solid in Table 1 in a non-oxidizing atmosphere after performing temporary quenching for degreasing at 550 \*\* in an oxidizing atmosphere for 3 hours, and the silicon carbide sintered compact of honeycomb structure was produced by porosity. About this sintered compact, an average pore size and porosity were measured with the mercury porosimeter, thermal conductivity was measured with the laser flash method, respectively, and also four-point flexural strength was measured, and that result was shown in Table 1. The microphotograph which is a crystal structure of the nature sintered compact of silicon carbide produced in Example 1 was shown in drawing 2. The graph which plotted (%), porosity, intensity (MPa), and thermal conductivity (W/mK) to the quantity (wt%) of the blended metal Si powder was shown in drawing 1. When the crystal phase was identified in the X diffraction, consisting of SiC and Si was checked.

[0055]

[Table 1]

	SiC粉末の 平均粒径 ( $\mu\text{m}$ )	SiC粉末の配 合量 (wt%)	金属Si粉末 の平均粒径 ( $\mu\text{m}$ )	金属Si粉末 の配合量 (wt%)	焼成温度 ( $^{\circ}\text{C}$ )	平均細孔径 ( $\mu\text{m}$ )	気孔率 (%)	4点曲げ強度 (MPa)	熱伝導率 (W/mK)
実施例 1	32.6	80	4	20	1450	9.0	49.0	20	21
実施例 2	32.6	80	4	20	1600	10.0	44.0	25	20
実施例 3	32.6	65	4	35	1450	12.0	45.0	25	25
実施例 4	32.6	65	4	35	1600	13.0	42.0	28	26
実施例 5	50.0	80	4	20	1450	11.6	45.0	20	21
実施例 6	50.0	80	4	20	1600	13.5	49.0	22	20
実施例 7	32.6	90	4	10	1450	9.0	45.0	16	15
実施例 8	32.6	85	4	15	1450	9.0	47.0	20	20
実施例 9	32.6	80	12	20	1450	11.0	43.0	20	20
実施例 10	32.6	80	30	20	1450	13.0	42.0	18	25
実施例 11	32.6	70	4	30	1450	12.0	47.0	27	23
実施例 12	32.6	60	4	40	1450	12.0	43.0	23	28
実施例 13	32.6	55	4	45	1450	14.0	40.0	20	30
比較例 1	32.6	97	4	3	1450	8.0	45.0	3	3
比較例 2	32.6	45	4	55	1450	16.0	25.0	18	23

[0056](Consideration) In the comparative example 1, decline in porosity was able to be checked in decline in intensity and thermal conductivity, and the comparative example 2. On the other hand, sufficient numerical value is shown about the porosity, the intensity, and the

thermal conductivity demanded when using as DPF for carrying out catching removal of the particulate contained in the exhaust gas discharged from a diesel power plant in Examples 1-13 concerning this invention, etc. The graph shown in drawing 1 shows that the suitable addition of metal Si powder exists in 5 to 50% of the weight of the range to the total quantity of SiC raw material powder and metal Si powder. By this, the effect which was excellent in this invention was able to be checked.

[0057](Examples 14-20) Blend the SiC raw material powder and metal Si powder which have mean particle diameter as shown in Table 2 so that it may become the presentation of the table, and this powder 100 weight section is received further, Methyl cellulose 8 weight section, surface-active agent 2.5 weight section, and water 28 weight section were added as the weight section which shows the powder of poly methyl methacrylate in the table as an ostomy agent, and an organic binder, and the silicon carbide sintered compact of honeycomb structure was produced by the same method as Examples 1-13 after that. Each calcination temperature was performed at 1450 \*\*. About this sintered compact, thermal conductivity was measured for an average pore size and porosity by the laser flash method with the mercury porosimeter again, respectively.

[0058]

[Table 2]

	SiC粉末の 平均粒径 ( $\mu$ m)	SiC粉末の配 合量 (wt %)	金属Si粉末 の平均粒径 ( $\mu$ m)	金属Si粉末 の配合量 (wt %)	造孔剤の平均 粒径 ( $\mu$ m)	造孔剤の 配合量 (%)	気孔率 (%)	平均細孔径 ( $\mu$ m)	熱伝導率 (W/mK)
実施例 1 4	32.6	80	4	20	60	20	58.0	21.0	14
実施例 1 5	32.6	75	4	25	12	14	53.0	13.0	25
実施例 1 6	47.0	85	12	15	12	20	60.0	18.0	12
実施例 1 7	47.0	80	12	20	12	20	58.0	15.0	16
実施例 1 8	68.0	85	12	15	30	20	55.0	30.0	18
実施例 1 9	68.0	90	12	10	60	25	66.0	40.0	10
実施例 2 0	32.6	80	4	20	60	30	70.0	25.0	9

[0059](Consideration) The honeycomb structured body of this invention shows sufficient numerical value about the porosity, thermal conductivity, and average pore size which are demanded when using for example, as a filter for motor exhaust purification etc. which made the catalyst support so that clearly from Table 2. Even if it was a case (examples 16-19) where the particle diameter of the SiC powder which is aggregate was enlarged, the honeycomb structured body was able to be produced by adjusting the particle diameter and loadings of an ostomy agent, without raising poor molding. By this, the effect which was excellent in this invention was able to be checked.

[0060]

[Effect of the Invention]As explained above, though fireproof particles, such as silicon carbide particles, are included, since it can be made to sinter with comparatively low calcination

temperature at the time of the manufacture, the honeycomb structured body of this invention can improve [ yield's ] while holding down a manufacturing cost, and can be provided cheaply. Since it has high thermal conductivity as compared with the conventional structure which combined fireproof particles using glassiness, when it is used, for example for DPF, even if it burns the particulate deposited for filter regeneration, local generation of heat which damages a filter does not arise. Since porosity and thermal conductivity are predetermined numerical value ranges and it is a honeycomb structured body of the low porosity of pressure loss, it can be conveniently used also under high SV conditions as a filter for motor exhaust purification etc. which made the catalyst support.

---

[Translation done.]

\* NOTICES \*

JPO and INPIT are not responsible for any damages caused by the use of this translation.

- 1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
- 2.\*\*\*\* shows the word which can not be translated.
- 3.In the drawings, any words are not translated.

---

## DESCRIPTION OF DRAWINGS

---

[Brief Description of the Drawings]

[Drawing 1]It is the graph which plotted (%), porosity, intensity (MPa), and thermal conductivity (W/mK) to the quantity (wt%) of the blended metal Si powder.

[Drawing 2]It is a microphotograph which is a crystal structure of the nature sintered compact of silicon carbide produced in Example 1.

[Description of Notations]

10 -- Metal silicon, 11 -- Silicon carbide particles, 12 -- Stoma.

---

[Translation done.]

JPO and INPIT are not responsible for any  
damages caused by the use of this translation.

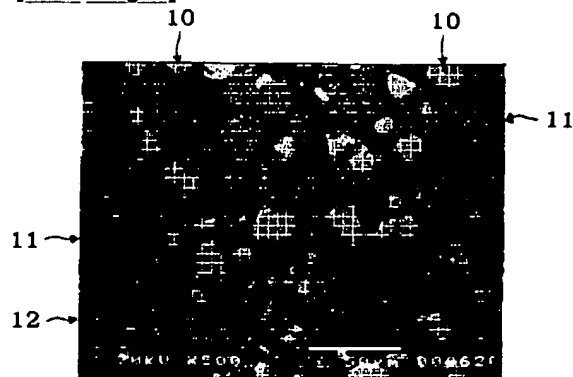
- 1.This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
- 2.\*\*\* shows the word which can not be translated.
- 3.In the drawings, any words are not translated.

[Drawing 1]

Figure 1 is a line graph showing the relationship between the amount of metal Si powder (wt %) and the properties of the composite. The Y-axis represents properties: Porosity (%), Strength (MPa), and Thermal Conductivity (W/mK). The X-axis represents the amount of metal Si powder (wt %) from 0 to 60. Three data series are plotted: Porosity (diamonds), Strength (squares), and Thermal Conductivity (triangles).

金属Si粉末量 (wt %)	気孔率 (%)	強度 (MPa)	熱伝導率 (W/mK)
5	45.0	3.0	7.0
10	45.0	16.0	15.0
15	47.0	20.0	18.0
20	49.0	20.0	21.0
30	47.0	27.0	23.0
35	45.0	25.0	25.0
40	43.0	23.0	28.0
45	40.0	20.0	30.0
55	25.0	18.0	23.0

[Drawing 2]



[Translation done.]